

シティズンシップ教育に関する 河合塾グループの取り組み例

2016年2月10日

学校法人河合塾 中部本部長

室崎 欣彦

1

シティズンシップ教育に関する河合塾グループの取り組み例

1. 「いきいきゲーム(ビジネス・シミュレーションゲーム)」

対象: 小学5年生～高校3年生

2. 「K-pro」(主体的な学びの中で、学問のおもしろさを追及する、 トップレベル生のためのコース)

対象: 中学1年生～高校2年生の無学年制

『全日本高校模擬国連大会』(英語)

3. 日本史オリエンテーリング「明治村物語」

対象: 河合塾大学受験科生、高校グリーンコース生

2

1. 「いきいきゲーム」(河合塾グループ:株式会社ウィル・シード)

<目的>

ビジネス・シミュレーションゲームの体験を通して、社会との関わりあいや生きる力の大切さを学ぶ。

<対象>

小学5年生～高校3年生

<人数・場所・時間>

1クラス 21名～45名、教室など、1日(6時限)

<進行役>

講師:各クラス1名、授業サポーター:各クラス3名

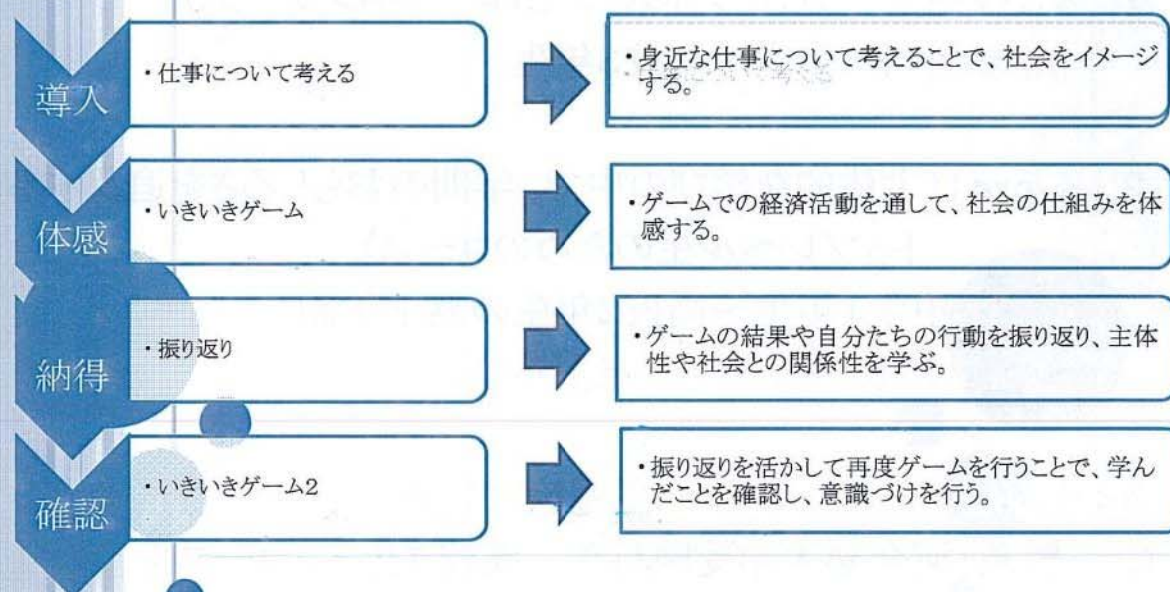
※「いきいきゲーム」のサポート役として、保護者・教員の方に参加してもらう。

<教材>

『未来ノート』

「いきいきゲーム」のプログラムの流れ

- 体験型教育の概念に基づいて設計されたプログラム。それぞれのセッションに狙いを持たせて、高い教育効果を上げることを目指す。



<授業で伝えるメッセージ>

- ①失敗おめでとう、②答えは1つじゃない、③得意をいかそう

「いきいきゲーム」の概略

「いきいきゲーム」は楽しみながら、自然な形で世界経済や社会の仕組みを学べる体験型のシミュレーションゲーム。ゲームには、現実社会をわかりやすく理解できる仕掛けがたくさん詰まっている。ルールは最小限で、すべては自分で考え、決断・行動しなければならない。そこから生まれる子どもの豊かな発想や大胆な行動が、ゲームの行方を左右する。体験を通じて、社会で生きていく力を醸成する。

<チーム対抗>

会場を1つの世界とみたと、いくつかの国に分かれて行う国対抗ゲーム。

<不平等な設定>

それぞれの国情に合わせて、支給される紙(資源)、道具(技術)、所持金(資金)が異なる。

<一番豊かな国を目指す>

指定された製品を生産し、銀行に持ち込むと換金でき、時間内に一番豊になることができた国が勝利する。

<国連からのアナウンス>

進行は世界をとりまとめる国連が行う。現実にも起こりうる出来事や変化が国連からアナウンスされる。

5

実施モデルと料金表

「いきいきゲーム」では、ウィル・シードより講師を派遣する“講師派遣モデル”と各地域にて講師となる人材を育成し、自治体により選出した講師を派遣し授業を行う“地域人材養成モデル”の2つのモデルで実施を展開。

①講師派遣モデル

料金:286,000円/クラス

(税抜:講師1名、アシスタント2名派遣、なお交通費や宿泊費は別途必要)

②地域人材養成モデル

◆育成料金:5名まで 667,000円、6名以上 130,000円(1名加算)

(税抜:講師・アシスタント代、なお交通費や宿泊費は別途必要)

※3日間の研修を行う。1開催の上限人数は12名。

対象例:自治体(役所)の人、地域の有識者、学校の先生

◆教材費用:34,000円(税抜)/クラス

6

過去導入実績

◆国からの委託事業

<企業家教育>

経済産業省「企業家教育促進事業」平成14年～18年度5年連続受託

全国95自治体の小学校～高校生に実施、約550校の学校、約5万人の児童・生徒。

平成14年度:小12校、中12校、合計3,253名

平成15年度:小45校、中23校、高3校、合計6,452名

平成16年度:小99校、中60校、高30校、合計17,538名

平成17年度:小88校、中49校、高22校、合計13,566名

平成18年度:小45校、中34校、高17校、公募2校、合計8,854名

◆自治体・学校との取り組み

経済産業省「企業家教育」や「キャリア教育」事業に引き続き、自治体・地域のNPO・学校より委託を受け、平成19年度以降、合計33,000名(小592クラス・中431クラス・高65クラス)に実施。

◆企業との取り組み

<金融教育>

企業からの委託を受け、平成18年度以降、合計約1,400名に実施。

参加した子どもの声

<子ども>

- ・今まで以上に自分の将来つきたい仕事に、より一層興味を持つことが出来た。
- ・自分らしさと自分の得意なことがもう1つ増えてよかった。
- ・今まではこれというなりたい職業がなかったが、自分が何に向いていて向いていないかなどを知ることができた。
- ・社会の仕組みや仕事の難しさがよく分かった。
- ・相手の意見も聞き、自分ばかりが言わないよう、話し合ったり、コミュニケーションをとることも大切だと思った。
- ・「失敗を次に活かせばいい」という言葉は、すごく勇気になると思った。

参加した教員、保護者サポーターの声

<教員>

- ・今回変わったのは生徒だけではなく、教員はこれまで「この生徒はこうだ」と学力で判断しがちなところがあった。今回の授業で一日生徒を見ることができ、生徒の知らない一面をたくさん見た。「いきいきゲーム」で動く姿がとても新鮮で、やる気を持った生徒、積極的な姿勢など新たな発見が多く、教員の生徒を見る目が変わった。
- ・「自分で考えて行動する」ということが年々苦手になっている子供たちに、今回の授業はとても刺激があったと思う。

<保護者>

- ・子供たちが生き生きと授業に参加している姿を見ながら、子供たちと同じ一日を過ごすことができたこと、私自身も勉強することができ、本当に良かった。
- ・目的に向かって仲間と協力し合い、知恵を出し合っていく過程で、お互いを高め合い、磨き合っているんだなあということが目に見えて実感できたことが何よりもうれしかった。
- ・常に正解が要求される学校で、「自分で考えてリスクを引き受けていく」「自分のチームの人と協力し、他のチームの人と交渉する」など、学校での活動と意味の違う活動を楽しみながらできる良いプログラムだったと思う。

9

2. 「K-PRO」コースの特色と指導方針

(1)コースの特色

- ①理数・英語の2つの専攻があり、大学入試にとらわれない本質的で、高度な学力を身につけることを目指す。
- ②各科目超トップ生が集い、学問を自由にかつ存分に語ることでできる場を提供。
- ③中学生・高校生を対象として、学年の枠にはとらわれないカリキュラムを編成。
- ④少人数制(最大20名)クラスで、アットホームな学習環境のもとで学ぶことができる。

(2)コースの指導方針

- ①学問の原点に戻り、勉強することがおもしろくかつ有益であることを説く。
- ②「主体的な学び」の中で、学問の本質的理解につながる高度な指導を行う。

「21世紀版寺小屋」のイメージ

10

全日本高校模擬国連大会の概要(グローバル・クラスルーム委員会主催)

- ◆2007年から始まる。2015年度第9回大会は11月14日～15日に実施された。
大会で選出された高校生は、ニューヨークの国連本会議場の世界大会に出場する。
2015年度の参加高校数は過去最多の136校(ペアで203チーム)。

◆大会の目的

- ①国際連合及び国際関係に関する研究と国際問題の正確な理解またはその解決策の探求を促進すること。
- ②豊かな国際感覚と社会性を有し、未来の国際社会に指導的立場から大いに貢献できる人材を育成し輩出すること。

◆これまでの議題(抜粋)

- 2007年:気候変動に関する国際社会の将来的取り組み
- 2008年:武力紛争下の子ども一子ども兵に関する問題
- 2011年:エネルギー安全保障
- 2012年:核軍縮
- 2013年:児童労働
- 2015年:移民政策



11

高校模擬国連の意義

◆高校生はどのように成長できるか！

- ①参加者は一国の大使として国際会議に参加しているので、国際ルールに従って行われる。
- ②国の利益と世界の利益のバランスを考えながら、最終的に国連決議が採択できるよう交渉する。そのためには、お互いの主張を尊重しながら、最終的に妥協点を見つけることを学ぶ。



シティズンシップ教育につながる。

12

高校模擬国連の意義

◆河合塾「K-pro」(英語)が生徒たちに実践させていること

- ①議題に関する文献(英語と日本語)を探して読み込む。
- ②高校の枠を超えて、大学の先生や専門家に直接取材し、教えを請う。
- ③高校の枠を超えて、議題に関する問題点や課題等を英語と日本語で討論させ、より議題について深く学ぶ。
- ④大会終了後も、研鑽を続ける。



現代社会の諸問題について知識を得、意識を持ち、
自分で考えることができるようになる。

愛知県の高校生の英語学力状況

◆文部科学省は、2016年2月2日に「中学3年生と高校3年生の英語力を、
国が統一して測るはじめてのテストの結果」を公表。

< 中学3年生 >

- ・全国の国公立中学3年の一部である約6万人を対象に4技能をテスト。
- ・中学卒業時の目標とされる英検3級程度に達した生徒は2~4割。

< 高校3年生 >

- ・今回は2014年度に次ぐ2回目のテストで、約9万人が対象。
- ・国際指標で7~8割が中学レベルとされるA1だった2014年度とほぼ同じ結果。

◆河合塾実施のセンターリサーチから見た愛知県(高校3年生)の英語の平均点

2016年: **108.2点**(全国平均:113.4点)、**26位**

2015年: **110.3点**(全国平均:116.3点)、**30位**

2014年: **114.3点**(全国平均:119.4点)、**28位**

< 参考 > 2016年東京:126点、3位 / 大阪:121.9点、5位)

日本史オリエンテーリング『明治村物語』

<内容>

近現代史を実際の建物や資料などを目の当たりにしながら、重要ポイントごとに河合塾講師の講義を聴いたり、クイズで競ったりしながら楽しく学ぶイベント。

なお、**グループで相談しながら決められた重要ポイントを巡り、クイズに解答する。**

<目的>

①歴史の舞台に立って、歴史のことを多角的な視点で学ぶ教養講座。

※河合塾では30年以上前から塾生のために、『鎌倉オリエンテーリング』(関東)、『飛鳥オリエンテーリング』(関西)など、大学で今流行のエクステンション講座を先駆けて実施している。

◆河合塾で教養講座が実施できる背景

河合塾の講師は、大学の先生になりたかった人が多く、そのため学問の専門がきちんと確立している。だから、日本史だけでもいろいろな専門分野から生徒たちに教えることができる。また、他の教科・科目の講師も参加している。

②解説では、最後に受験のアドバイスもして入試も意識させる。

2016 年度

高校グリーンコース生へのメッセージ

ひとつ上が、見えてくる。

河合塾

考える力で、生きていこう。
たとえ時代が
どんなに変わっても。

